

早つとに白帝城はくていじょうを發はつす（李白りはく）

朝辭白帝彩雲間

千里江陵一日還

兩岸猿聲啼不住

輕舟已過萬重山

朝あしたに 辭じす 白帝はくてい 彩雲さいうんの 間かん

解説 朝早く白帝城を出発し、三峡の險を下つて江陵に向かう舟旅をうたつたもの。

千里せんりの 江陵こうりょう 一日いちじつにして 還かえる

兩岸りょうがんの 猿聲えんせい 啼ないて 住やまざるに

語釈 ※早つと早朝早く。※白帝城はくていじょう中国四川省、崖の中腹に立つて、瞿唐峽くとうきょうに臨んでゐる。※彩雲さいうん色どられた雲。朝焼け雲。※千里江陵せんりこうりょう白帝城から江陵までは千二百里ある。※一日還いちじつかえ實際には一日で江陵までは行けない。これは、川の速さをいう慣用語になつてゐる。※猿聲えんせい三峡のあたりには猿が多い。※啼不住なはず絶え間なしに啼く。※万重山ばんちゅうざんいくえにも重なつてゐる山々。

輕舟けいしゅう 已すでに 過すぐ 万重ばんちゅうの 山やま

通釈 朝早く、朝焼け雲のたなびく白帝城に別れを告げて、千里の向こうの江陵まで、たった一日で進んでゆく。切り立つ兩岸の猿の聲が絶え間なく続くうち、軽い小舟は、いくえにも重なる山の間を通り抜けていた。